



平成元年の
中学2年生日記

山田夫妻

平成元年の中学2年生日記

皆さんは山田夫妻氏のご高無名を当然ご存知ないだろう。もし万が一知っていたら、モグリである。

山田夫妻は日本一、いや、世界一無名な自称プロ戦場特派員である。
今のところ、その存在は世界でひとりしか確認されていない。
そう、山田夫妻は世界にたった一人だけの自称プロ戦場特派員なのだ。

1999年1月創業の老舗で、本年2013年1月で自称プロ戦場特派員稼業一筋14年目に突入するも、いまだに絶賛戦場童貞中、もちろん素人戦場も玄人戦場とも童貞。
もう世界遺産レベル、世界びっくり人間国宝だよ。

この『平成元年の中学2年生日記』は、そんな山田夫妻が中学2年生のときに、自称プロ戦場特派員という己が運命に気付いた克明なる記録である。

『平成元年の中学2年生日記』は、俺が図書委員に選出された日から始める。
今から24年前、昭和が終わったばかりの平成元年、田舎の図書委員と言えばワルの代名詞で、別名不良委員と呼ばれていた。

パンピー生徒諸君の貸し出し図書数は1回5冊までなのに、不良委員こと図書委員は貸し出し無制限というワルっぷり。俗に言う、役得役得。

当時は活字中毒でいつもラリっていたから、その借りっぷりは、もし正規の貸出し手続きをしたら、図書委員が根をあげるくらいの冊数だったとしか言えない。
正直、図書委員の仕事を増やしたくない、図書委員としては。

だから、当然アンダーグラウンドな非合法的極悪非道な借り方をしていた。
人目を一切気にせず、かばんにガバガバと放り込んじゃう。もうお菓子詰め放題ノリだ。この不良！

遠目には超頑張っている図書委員さんに見えたかもしれない。
ま、そんな危ない橋を渡って、出会った数多の本の中に運命本もあった。

平成元年の中学2年生日記

<http://p.booklog.jp/book/67573>

著者：山田夫妻

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yamadafusai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/67573>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/67573>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ